

## 1. 研究テーマ

大動脈弁硬化の進行に対する喫煙量の影響

## 2. 背景

「大動脈弁硬化」は、心臓の弁のひとつである大動脈弁が部分的に分厚くなったり石灰化をおこしたりする病変です。動脈硬化とも共通点があるとされています。大動脈弁硬化では、弁の動きも心臓の機能も正常で、症状ありません。病変が進行していくと、弁が硬くなり弁の動きが悪くなっていきます。長い期間でさらに病変が進行すると、弁が十分に開かなくなり、心臓から全身への血液の出口が狭くなる、「大動脈弁狭窄症」となることがあります。大動脈弁狭窄症は、進行性の病気で、進行に伴い、全身への血液の流れが十分でなくなり、心不全を起こしてきます。現時点では薬で病気の進行を止める治療法はなく、重症の大動脈弁狭窄弁に人工弁置換術が行われます。

大動脈弁狭窄症になる前の段階で、大動脈弁硬化の予防や、早期の大動脈弁硬化から狭窄に至らないようにすることができれば、予防医学的に有意義であると考えられます。当協会では、大動脈弁硬化の進行や予防に関与する因子についての研究を行なっています。これまでに、無症状の勤労男性で喫煙量が多い人ほど初期大動脈弁硬化病変を有する頻度が高いことを報告しました (Circ CV Imaging, 2019)。今回は、大動脈弁硬化の進行と喫煙量との関連を検討します。

## 3. 目的

今回の研究の目的は、初期の大動脈弁硬化の進行と喫煙量との関連を検討することです。

## 4. 対象

当協会で健診を受けられた成人の受診者のうち、2005年1月から2019年12月までの間に、3年以上の間隔をあけて2回以上の心エコー図検査を受けられた方。

## 5. 方法

上記対象者について、個人を識別することのできる情報を削除し匿名化したうえで、心エコー図検査結果から診断した大動脈弁硬化の進行の有無と、喫煙量やその他の動脈硬化危険因子との関連を検討します。

## 6. 個人情報の保護

研究対象者のデータから氏名等、個人を識別することのできる情報を削除し、代わりに新たな符号(番号)を付して匿名化を行います。

研究対象者とこの符号(番号)を結びつける対応表は厳重に保管します。また、研究成果は学術目的のために論文や学会で公表を予定していますが、その場合には、研究対象者個人を特定

できる情報は利用しません。

## 7.研究に用いる情報の種類

労災二次健診、循環器二次検診、循環器ドックの以下のデータを利用します。

- ・心エコー図検査データ
- ・血液検査データ
- ・身体所見と問診データ

## 8.研究期間

2020年1月1日～2020年6月末日

## 9.研究組織

- ・研究機関

公益財団法人 兵庫県予防医学協会

- ・研究責任者

公益財団法人 兵庫県予防医学協会健診センター 山浦泰子

## 10.お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

また、情報が本研究に用いられることについて、ご了承いただけない場合には研究対象 から除外することができます。その場合でも、将来にわたって当協会における健診、検診、指導の面で不利益を被ることは まったくありませんのでご安心ください。

なお、分析による統計データが既に公表されている場合等、除外に応じられないこと がありますので、ご了承ください。

[本研究についてのお問い合わせ、データ利用を拒否する場合の連絡先]

公益財団法人 兵庫県予防医学協会 健診センター 山浦泰子

〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町1丁目8番1号

TEL:078-855-2715(代表)

E-mail:yyamaura@hyogo-yobouigaku.or.jp